

きのこの森から

vol.1



文・写真=きのこ写真家

新井 文彦

針葉樹と広葉樹のハーモニー

北海道・阿寒川源流部

きのこの森



可愛く美しい、
森の主役

森にひっそり生えている、きのこが好きだ。

きのこが好き、と言うと、食物として好きだと思われがちだが、ほくは、きのこを食べることにそれほど興味がない(ただし、森でマツタケやポルチーニ茸を見つけようものなら話は別!)。大自然に生きる草花や昆虫や鳥や動物などと同じく、きのこの容姿が好きで、生物的に興味を持っている。

ぼくの生業は写真撮ることだ。原生林という舞台で、モデルさん(主に、きのこ、粘菌「変形菌」、コケなど、いわゆる隠花植物)を、いかに可愛く、いかに美しく撮るか、いつもそればかり考えている。

天を突くように林立する巨樹や、可愛いリスに勇猛なクマさん、美しく可憐な花など、森には魅力的な被写体がたくさんあるのに、なぜ、きのこの写真ばかり撮っているのか?

そんな疑問を持つ方もきっといらっしゃるだろう。いい機会をいただいたので、その美しさ、その存在感、そして、森における生態系的役割も含めて、きのこは森の主役と言うにふさわしいと、『三洋化成 ニュース』の読者の皆様にお伝えしたいと思う。

では、早速、ぼくが愛してやまない「きのこの森」へとご案内することにしよう。

【表紙写真】 コケや地衣類が表面を覆った倒木から発生したヒメコガサ



